

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 17章5-10節＞
弟子たちに対する主の3連続の教えであることに着目。

1 (5-6) 「信仰」で何を考えるか、それが問題。 聖書では？

12弟子（「使徒たち」）が「私どもの信仰を増して下さい」と言ったのは、その直前にイエス様の赦しの教えを聞いて、「信仰がまだ足りない」と思ったからでしょうか。それに対するイエス様の答えですが、弟子たちの信仰の少なさを嘆かれたのだとは言いきれません。問題は、弟子たちが「私どもの信仰」と言う時に何を考えているかです。もし信仰をイエス様の言われることをよく理解できたら自分が独自に持てるようになる何かのように考えていたら、それは違います。そのように考えるなら、それが持った時点でイエス様はいらなくなります。ペトロが生まれながら足の不自由な人に「私には金や銀はないが、持っているものをあげよう」と言ったのは、イエス様への信仰心ではなくてイエス様御自身なのです（使徒 3:6）。イエス様が弟子たちに「人間にはできないことも、神にはできる」と言われた時、ペトロは「あなたに従って参りました」と答えています（ルカ 18:28）。「イエス様が強いが故に、私は弱くても大丈夫」（Iコリント 12:9-10）、これが聖書が教えている「信仰」という言葉の中身なのです。

2 (7-10) 仕えられるためでなく、仕えるために来られた主イエス！

何が言いたいのでしょうか？ ここも弟子たちに語られている点が大事です。前半の例え話では弟子たちは主人の側ですが、10節の結論部では弟子たちは主人（イエス様）に仕える僕です。弟子たちはいずれ宣教に遣わされ、人々を教える側になります。イエス様は、その時に主人の側に立ったかのように思い違えてはならない、と教えておられるのです。主人はあくまでイエス様であり、私たちは皆その弟子であり続けるからですし、それ以上に、主人であるイエス様が弟子たちの足を洗われ（ヨハネ 13:12-15）、「私はあなたがたの中で、いわば給仕をする者である」と言われ、仕える者になりなさいと弟子たちに教えられたからです（ルカ 22:24-30）。

七度赦しなさいと言われ(1-4)、それは私たちにはできないが主なる神様にはできると示され(5-6)、その主が示された姿に従って生きなさいと教えられたのです(7-10)。私たちは、今、確かに、その様に（人に仕えて）生きよう、それでいいと思えるのではないのでしょうか！